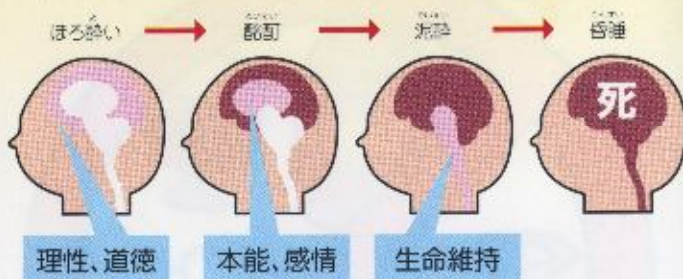


なぜ未成年者が飲んではダメなのか？

① 急性アルコール中毒の危険

酔っぱらうとは？

脳がアルコールの麻酔作用で麻痺している状態です。もし飲み過ぎて脳全体が麻痺すると昏睡状態になり呼吸が麻痺して最悪の場合、死に至る危険があります。



未成年者がもしお酒を飲んでしまうと

未成年者は、自分の適量を分かっていないため、酔う前に(短時間で)、大量のお酒を飲んでしまい、急速に脳全体が麻痺することがあります。(急性アルコール中毒)特に、一気飲みは、飲んだ直後ではなく、30分から1時間後に血液中のアルコール濃度が急に上昇するので、急性アルコール中毒死を起こしやすく、非常に危険です。

急性アルコール中毒

下記の症状があれば、すぐに、救急車を呼びましょう

- ・大声で呼んでも、つねっても反応しない
- ・呼吸がおかしい
- ・脈が触れにくい
- ・失禁している

救急車が到着するまでの注意

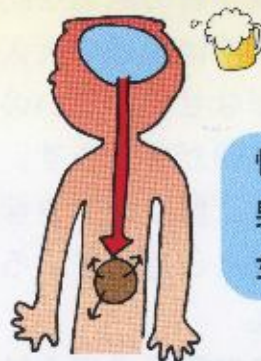
- ① 絶対に一人にしない
- ② 横向きに寝かせ、嘔吐物に注意する
- ③ ベルトをゆるめ、毛布などをかける



② 体への特別な影響

アルコールによって肝臓や胃腸などの内臓の病気になるだけでなく、未成年の時期には大人と違って、特別な体への影響があります。

第2次性徴への影響



性ホルモンの量が減る
男子では勃起障害
女子では生理不順や無月経

未成年者の脳の神経細胞への影響



思春期の脳は大人の脳に向かって劇的な変化をしている大切な時期です。大人の脳と違ってアルコールの悪影響を受けやすく、脳の神経細胞が破壊されたり、依存症の危険性が高くなります。(③アルコール依存症になりやすい参照)

③ アルコール依存症になりやすい



アルコールは麻薬と同じ依存性薬物の1つです。

	アルコール	ヘロイン	覚せい剤
精神依存	強い	最強	強い
身体依存	強い	最強	ほとんどない

10代の飲酒は依存症の危険性が高い



Grant BF et al. AHRW. 1997

飲酒を始める年齢が早ければ早いほど、大人になった時アルコール依存症になる危険性が高くなり、お酒の問題も起こしやすくなります。

また、未成年の依存症は、大人と比べて進行が早いと言われています。

15歳までにお酒を飲み始めると

将来依存症になる確率が**4倍**に

増えるという報告があります。